



[キハ40と北海道の大動脈・石勝線]

まさかダイナマイトをひとつずつ人の手で仕掛けていたとは。鉄道・運輸機構の工事記録アーカイブ動画シリーズの1本「北の鉄路をひらく」を視聴し、昭和40年代にタイムスリップしたような気持ちになりました。

動画に出てくる石勝線は道内の交通における大動脈の1つ。新得駅には美味しい駅蕎麦屋さんが構内にあり、真冬の季節に煙をもくもく上げて走るキハ40を乗り継いで食べにいった思い出があります。

コロナ禍の今、各地に出向き「乗って残そうローカル線」とはいかなくなっています。はからずも、新得駅で接続する根室本線の一部が廃止されることについて、地元合意がなされたというニュースがありました。

これで札幌都市圏と帯広・釧路を結ぶ鉄道アクセスは、石勝線に頼ることになります。

鉄路を守るために、いち鉄道ファンとしてさまざまな路線に乗って応援することは言うまでもありませんが、人々の交流・物流の生命線としての鉄路を維持する意義について、鉄道会社任せにせず、国民皆の関心事にせねばならない時が来たと感じています。



雪の中を走行するキハ40 (画像提供:PIXTA)



新得駅ホームでのキハ40 (画像提供:PIXTA)



新得駅の外観 (画像提供:PIXTA)



昭和52年10月6日に行われた石勝線のレール締結式



編集後記

▼「鉄道・運輸機構だより」2022年春季号をお届けします。いつの間にか冬の寒さが緩み、桜の蕾を膨らませる頃、春は気持ちが引き締まる新しい出会いと別れの季節ですね。

▼巻頭言では、長谷川理事より間近になった新幹線の開業準備についてご紹介しました。

▼特集では、令和3年7月の機構改革プランの総仕上げとして、茶木環氏(作家・エッセイスト)と河内理事長による対談を行いました。「未来の交通ネットワークづくりを託されるために」をテーマとして、熱意を持って語っています。ぜひご期待ください。

▼今回のワーキングレポートでは、北陸新幹線(金沢・敦賀間)の小松鉄道電気建設所を取り上げました。令和5年度末(2023年度末)の開業に向けて大雪の中でも作業が着々と進められており、駅舎内や高架の上での電気工事など、建設所長の苦労話も紹介しています。

▼トピックスでは、昨年12月末から運用を開始した公式Twitterをご紹介しています。プレスリリースや事業紹介など写真や動画を交えながらこれまで以上にタイムリーな情報発信が可能となりました。SNSでの反響がダイレクトに伝わり、そのすごさを改めて感じています。公式Twitterをご覧ください。また方々に感謝します。

▼今回より、QRコードによる読者アンケートを始めました。広報誌に対するご質問や取り上げてほしい記事などがありましたら、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。(広報課長)

鉄道・運輸機構だより
読者アンケートはこちら

